

人とつながり，自分とつながる

～協働と創造の実践～

胎内市立中条中学校



1 学校の概要

胎内市立中条中学校（野澤一吉校長，生徒数 381 人）は，日本一小さい山脈である櫛形山脈の麓に，飯豊の山が源である胎内川が流れる，人口 29,000 人余りの胎内市にある中学校である。1947 年創立で昨年，創立 70 周年を迎えた。

来る新学習指導要領の改訂と創立 70 周年という節目を受けて，今年度は「新生中条中～生きる学校 活かす学校」を基本方針として，学校経営を進めてきた。教育目標に「自ら学び，他を思いやり，共に高め合う生徒」を掲げ，教職員による授業改革の推進や生徒の主体性を重んじた学校行事，活気ある部活動に取り組んでいる。「開かれた学校」をテーマに，2 年後のコミュニティスクールの本格実施に向けて，準備推進委員会を発足させた。保護者や地域の方々と委員会を年数回開き，学校経営について話し合っている。また，生徒会が中心になって行事を創り上げている。体育祭の前に，仲間づくりと称し「心を合わせる」などの SGE を行い，生徒同士の交流を深めた。体育祭のフィナーレとして全校生徒，教職員，地域の方も巻き込んでハイタッチをし，笑顔を交わした。



小中連携事業として年 2 回，地域ぐるみであいさつ運動を行ったり，生徒会による新入生体験入学・説明会やいじめ根絶 0 スクール集会を実施したりして，主体性や社会性の育成を図っている。

部活動が盛んで，今年度は 6 つの運動部と吹奏楽部が県大会出場を果たした。

2 NIE 実践のねらい

本校の研究主題は，平成 29 年度は，「人とつながり，自分とつながる～協働と創造の基礎固め～」とし，生徒の力を一層高めるために「学び合い」を取り入れた授業の展開についての研修を進めてきた。特に「まとめ・振り返り」の在り方について，「一人一実践」と称した研究授業を通して成果と課題を洗い出しながら，手立ての検証を行ってきた。平成 30 年度は，「人とつながり，自分とつながる～協働と創造の実践～」とし，昨年度の反省を受けて，有効な「課題」の在り方やファシリテーションの手法（以下 FT）を利用した「目的ある学び合い活動」を授業や単元の中で位置付け，生徒が主体的・協働的に学習に取り組み，

確かな学力を身に付けるために研修を進めてきた。

そこで、NIE 活動を通して、キャリア教育のまとめの活動として新聞作りを行い、「他の人が主体的に読もうとする記事の書き方」を学ぶ。実際の新聞記事から、記事の内容の吟味や構成、見出しの付け方などをFTを通して話し合い、表現力を高めていく。また新聞記事を読んだり授業の題材として取り扱ったりする活動の中で、現代社会の出来事と自己の生き方を考えたり、比較したりしながら、判断力や思考力を高めていく。

具体的には次の3つの能力の育成を図る。

- 論理的思考力（根拠を持って主張し他者を説得する力）
- 多面的・多角的に考察し、公正に判断する力
- 諸問題を見出し、協働的に追究し解決（合意形成・意志決定）する力

3 本年度実践の概要

(1) NIEに関連する職員研修や研究授業実践

時期	実施内容
4月	○ NIE 実践計画提案 ○ 壁新聞発表会（3学年修学旅行のまとめ）
5月28日	○ FT 研修会・NIE 研修① 指導者 五泉市教育委員会 指導主事 金 洋輔 様
7月26～27日	○ 第23回 NIE 全国大会（盛岡大会）参加
8月1日	○ NIE 職員研修②「魅力ある記事の書き方」 講師 新潟日報社 落谷 祥子 様
8月23日	○ NIE 職員研修③ （指導案検討①） ○ NIE 職員研修④（研究発表会の 運営及び指導案検討②）
10月12日	○ NIE 出前授業「新聞作りのポイント」 全学年・学級で実施 講師 NIE 推進協議会事務局長 土屋 修 様 毎日新聞社 柏崎通信部 内藤 陽 様 読売新聞社 新潟支局長 中島 慎一郎 様 産経新聞社 新潟支局長 池田 証志 様
11月1日	○ NIE1年次研究発表会 指導者 新潟青陵大学 教授 中野 啓明 様
11月8日	○ NIE 研究発表会参加 （柏崎市立鏡が沖中学校）
1月7日	○ NIE 職員研修⑤ （1年次の実践の反省とまとめ）

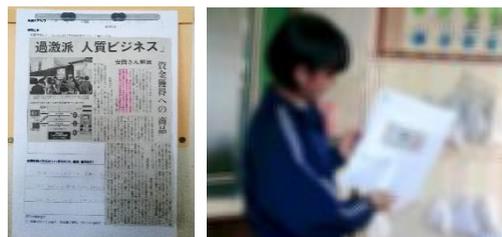


(2) 日常活動における新聞の活用

○ ねらい…新聞に親しむ(旬な話題, 国際情勢, スポーツなど)と同時に, 他の生徒がどんなことに興味があるかを紹介し合うことで, 自分の価値観と比較し視野を広げる。

① 各学級で, 終学活時に日直が気になった新聞記事の紹介・発表を行う。
 選択理由, 記事の内容, どんなことを考えたか(意見や考え)について発表する。

② 新聞記事のスクラップの作成
 →教室掲示(1年次は学級裁量で実施)



③ 国際理解委員会(生徒会)による取組



10・11月の新聞購読期間に, 各学年の委員がテーマ別にスクラップ新聞を作成

3学年「日本と世界, 今の世の中〇〇です!」
 時事新聞

2学年「部活動とスポーツ」新聞

1学年「胎内市と近隣地域, 〇〇やってるよ!」
 新聞, 「胎内市と近隣地域」新聞

④ 新聞に親しむ環境作りとして, 各学級スペース, 図書室に新聞を置く。

4 実践例

(1) NIE 職員研修②

8月1日(水), 新潟日報社の落谷祥子様を講師に招き, 「魅力ある記事の書き方」と題して職員研修を行った。生徒への新聞作りの指導にあたり, 教職員自身が, 新聞作りのポイントを理解しようと企画したものである。研修では, 演習を交えた丁寧かつ分かりやすい説明があり, 実り多き研修であった。参加した教職員の多くが「新聞の見方が変わった」などと新聞の魅力を発見できたり, 新聞の特徴である, 「逆三角形(レイアウト, 記事)」, 「見出しの付け方」, 「記事と作文の違い」, 「写真や図」などについての理解を深めたりすることができた。



(2) NIE出前授業

10月12日(金)、「自分史」新聞の作成に向けて、現役の新聞記者4名の方を招き、新聞のよさや書き方等を教授してもらい、新聞作りへの意欲とポイントを学ぶ機会を設定した。

全校生徒を対象とし、下記の日程・指導内容で授業を行った。

新聞社の方から講義 → 演習「見出しの付け方」 → グループで考えた見出し発表

【日程】

- 1 限…当日の日程及び
授業展開の確認等の打合せ
- 2 限…1年生(1組～4組)
- 3 限…2年生(1組～4組)
- 4 限…3年生(1組～4組)

【指導内容】

- ① 記事の書き方
- ② 記事と作文の違い
- ③ 編集…レイアウトのポイント
- ④ 見出しの付け方
※④について演習を実施



【生徒の学び(一部抜粋)】

新聞社の方のお話を聞いて、記事を書くためには「5W1H」を意識することや、分かりやすい言葉を使うことが大切だということが分かりました。

実際に演習をしてみて、見出しの付け方一つではないことや、記事の内容を10字程にまとめ、読み手の興味を引くように付けられているのが見出しなのだ分かりました。今日教えていただいたことを生かして、新聞を作成したり、新聞を読んだりしたいと思います。

(3) NIE 1年次研究発表会

11月1日(木)、「人とつながり、自分とつながる～協働と創造の実践～」を研究主題に、ファシリテーションの手法を用いて、自分の考えや思いを相手によりよく伝えることについて、下記の学年・教科を使って、授業を実践した。

2学年総合的な学習の時間「自分新聞の作成～職場体験学習を踏まえて～」

3学年総合的な学習の時間「未来新聞の作成～上級学校訪問を踏まえて～」

【本時の手立てと実際（一部抜粋）】

[2年生の実践]

① ねらい

読み手に伝わる新聞を目指し，自分が書いた記事の見出しやその理由などを小グループで意見交換するF Tを通して，読み手により伝わる見出しを決定することができる。

② 授業の実際

前時では，グループの仲間の記事を読んで，互いの記事について見出しを付せんに記述させた。本時では次の課題を提示し，よりよい新聞の完成に向けて授業を行った。



事前に作成した見出し

課題「より相手に伝わるものにするために，どんな見出しにしたらよいだろうか。」

本時では，職場体験学習の成果が読み手に伝わる新聞にするために，よりふさわしい見出しやその理由などを，前時で記述した付せんを基に意見交換し，読み手に伝わる見出しについて考えた。



互いの考えを交流し検討

新聞記者の方からお聞きした「見出しのポイント」（見出しの文字数は10字程度，内容が端的に分かるもの等）を根拠に，グループで一人一人の記事にふさわしい見出しを検討した。

授業の最後に，「授業を通して，自分が大切だと考えたこと」を項目として指定し，自分の考えを再考させた。

[3年生の実践]

① ねらい

班員のトップ記事を基に，各自で考えた見出しを交流し，読み手と書き手の意図や思いを交換する中で，よりよい見出しを決定する。

② 授業の実際

生徒は，これまでの学校行事や部活動，上級学校訪問での経験や考えたこと，学んだことを伝える記事を，前時までには幾つか作成した。



事前に作成した記事

本時では，よりよい新聞にするために，次の課題を提示しその解決を図った。

課題「書き手の思いを伝えるためにどんな見出しにすればよいだろうか？」

最初はトップ記事を互いに読み合った。

生徒は，何度も出てくる言葉に○や線を引きながら，この文章から伝わってくる内容や思いをキーワード化し，そこから個々に仮見出しを



仮見出し作成後の意見交流

決定した。その後、読み手の受け止めと書き手の意図や思いを交流し、それぞれが考えた仮見出しから、最終的によりよい見出しを自己決定した。

あらかじめ自分で考えた見出しと変わった理由、または変わらなかった理由を振り返らせた。



記事の見出し作成後の振り返り

5 成果

生徒の事前・事後アンケート項目「週1回は新聞を読む」の肯定的な回答結果は、年度当初は20%程度であった。NIE活動を実践した結果、60%程度まで上昇した。また、授業での新聞活用や掲示物、学級でのスクラップ作り、発表等の活動により、「以前より新聞への関心が高まった」と肯定的に回答した生徒も、全体で25%であった。この結果から、今年度の取組が新聞への興味・関心を高めたことについては、一定の成果があったと考える。

また、本研究の目標である「自己の生き方を考えたり、他と交流した考えを、比較したりしながら、表現力や判断力、思考力を高める」といった点についても、以下の結果から一定の成果があったと考える。

- 「話し合い活動を通して考えを深めている」肯定的回答…90%
- 「自分の将来の進路について考えている」肯定的回答…80%

次年度も、生徒が主体的・協働的に学習に取り組み、確かな学力を身に付けられるように、様々な教科の中で新聞記事を取り入れた授業実践を行ったり、日常活動を工夫したりして、効果的な新聞活用の取組について全職員で考えて授業改善を進めていく。